

2009年4月30日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2009年4月30日】

団体名 NPO 法人 東久留米の水と景観を守る会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

柳窪旧集落の保全活用推進～活きている野外博物館を目指して～その2

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

黒目川源流の清流、樹林、畑の織りなす景観と、江戸・明治の面影を強く残す柳窪旧集落の大型養蚕農家の形を伝える主屋、白壁の土蔵、付属小屋、屋敷林、長い生垣、その中で続けている人々の暮らしは、活きている野外博物館とも言え、東京都心に近い場所柄を考えると奇跡と言ってもよいと思います。

この貴重な「武蔵野の宝」を次世代に残すため、調査、PR、提案を行うとともに、必要な公的支援を得るための活動を推進します。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

2008年度は

- ①主な民家の屋敷内を巡る特別見学会を春、秋に行いました。
- ②緑の屋敷林内に点在する伝統的な土蔵群全17棟のうち調査を受け入れた10棟と古い付属小屋3棟を調査し各実測図を作成しました。
- ③その調査結果の報告会を行いました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

調査対象候補の土蔵などを所有する各家は土蔵内を見せること、立ち入らせることによりかなり抵抗感があり、調査そのものを受け付けない家も少なくありませんでした。再三訪問を重ね、2007年度の主屋などの調査例、社会的な意義などを説明し、調査に対する警戒心をほぐして協力を得るための努力を続けました。その結果、かなりの家で調査を受け入れ、今年度の土蔵10棟、付属小屋3棟の調査が実現しました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

伝統的な造りの主屋・土蔵・付属小屋が元の配置のまま集中して現存している柳窪旧集落を、客観的な実測に基づいて評価する手段ができつつあります。2008年度には土蔵・付属小屋の調査を進め、2007年度の主屋調査と併せ、柳窪旧集落の伝統的な建物群を国の登録有形文化財(建造物)の申請の基本資料として使えるようになりました。2009年度からは順次資料を整え登録申請を行う予定です。調査対象候補全てが調査できたわけではありませんが、できることから登録有形文化財(建造物)として評価されるよう各家をバックアップする所存です。助成金の効果は大きいと思います。ありがとうございました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし



土蔵調査状況



付属小屋調査状況